

平成26年4月(2014年) No.580

<随想>

クラブ運営の継続性の重要さを再認識 或る地方の映像界大御所の他界に接して

会長 合原一夫

このほど或る地方で大変ご活躍で映像会の大御所だった方が亡くなられ葬式に行ってきましたが、花輪の数も一杯で盛大な葬儀でした。聞くところによると、故人が先頭になって取り仕切っておられた映像発表会も出来なくなって中止、おまけにクラブも解散とのこと。実に淋しい話です。強力なリーダーが居て、そのリーダーに運営そのものをまかせ切りにし、又、メンバーはリーダーに頼りきっていて、せいぜい言われたことを手伝うといった認識では、そのリーダーが突然居なくなったらどうなるか。

今回のこの一件がすべてを暗示しています。即ち、突出したリーダーが居て、そのリーダーの言うがままの会の運営をやっているのは、いざとなったとき、そのクラブの存続そのものが立ち行かなくなる、ということです。普段から役割を分担し、後に続く人を育てておけば、万一のことがあっても、発表会を中止したり、例会が出来なくなる、或はクラブそのものの運営がおぼつかなる等ということは考えられないでしょう。

戦国時代の武将たちの物語も、強いリーダーが元気である間はよいが、そのあとが続くか、継続するかという問題と似ています。

企業にしても同じです。強いリーダーが居て活躍されている間は業績は向上し、規模も拡大できますが、突然そのリーダーが居なくなったら、その企業の継続性はどうなるのでしょうか。普段から次のリーダーを育て、役割分担をきちんと決め、ルールを守っておれば、すぐに活動を続けられるでしょう。私たちの趣味のクラブであっても「継続性」を考えた運営が如何に大事か、ということを感じ入った次第です。改めて会員諸氏、特に世話役さん達が頑張ってやって頂いていることに感謝いたします。

4月例会のおしらせ

4月例会は第4土曜26日午後6時より難波市民学習センターにて開催します。もう暖かくなっている頃です。月1回の例会です。皆で集まって楽しいひと時を過ごしましょう。作品の方もよろしく。

■OVCビデオフェスティバル

4月20日13時より大阪市立中央会館で恒例のOVCビデオフェスティバルが開催されます。OMCメンバーも多数出品しています。ぜひ来て下さい。発表会作品は見るだけで大変勉強になる筈です。

3月例会のレポート

お彼岸が過ぎたというのに、例会日の22日はまだ寒い一日でした。しかしもうすぐ桜だよりも聞かれることでしょう。今月の例会も15本の作品があり時間一杯の映写となりました。又、岡本世話役の紹介で2名の見学者もあり盛会でした。

・今月の司会は進藤氏、書記、高瀬氏、上映担当、井上、河合の両氏、録画、江村氏、受付権照明係りは華岡、森下の両氏の担当で進行しました。

■出席者：有村、井上、上田、江村、岡本、上総、蟹江、紙本、河合、黒田、合原、関、進藤、高瀬、華岡、野田、前田、森口、森下、山本、吉村、渡辺、見学2名、計24氏、

■作品上映：今月の講評は高瀬世話役です
1. 大雪の余部 (BD)

江村一郎 6分15秒

大雪に見舞われた2年前の1月、余部を訪れ制作された作品。雪が降りしきる余部の町の風景…新しく造られた橋梁を行く列車、雪を被った石仏、雪に埋もれた道路、そして雪かきに精を出す人々の姿などが作者独特の感性豊かな映像で描かれています。特に海沿いの風景と橋梁の遠景に見入っていると突然、雪かきの車のシャベルが大きな音とともにアップで入り込んでくるシーンは秀逸。また列車、クルマ、南天の実など、赤い色の被写体と雪の白さの対比が印象に残る作品でもありました。

2. 能登巖冬 (BD)

河合源七郎 6分30秒

トップシーンは厳しい能登の冬を象徴するような荒れる海。ローアングルで撮影されており、厳しさがより一層表現されています。荘厳なBGMもぴったりで雰囲気

盛り上げています。画面は海から吹く風に身を潜めるかのような集落の風景に変わる。そして再び海へ。波はさらに高くなり、海岸に波の花が舞う。波の花はなかなか撮影するチャンスがなく、5年通われ、ようやく撮ることが出来たそうです。ラストの打ち寄せる波の大きさは圧巻で、波の花といい荒れ狂う波の凄さは力強く、迫力のある作品となっています。

3. 石龕寺 秋景色 (BD)

進藤信男 11分45秒

兵庫県丹波市山南町の石龕寺(せきがんじ)。南北朝時代、足利尊氏が観応の擾乱に敗れ、播磨に逃れる時、嫡子義詮と二千騎をとどめたという足利氏ゆかりの寺。寺の風景とともにその歴史をテロップとナレーションで紹介。そして紅葉が見ごろを迎える頃、もみじ祭りが行われる。足利氏の往時を偲ぶ武者行列に続き、山伏の一行が山に登る。後半は山伏の作法や護摩木、火渡りなど克明に描写されているが、山伏のシーンが全体の中でやや長いように感じられます。お聞きすると、撮影に3年かかったということで、力作であることは間違いありません。

4. 五大力尊仁王会 (BD)

紙本 勝 10分40秒

京都・醍醐寺で毎年2月23日に行われる五大力尊仁王会。「五大力さん」と呼ばれ親しまれている。五大力さんの力を授かり、平和と幸福を願う行事で十数万人が訪れる。「おかげ餅」をさすり健康を願う人たち、山伏の護摩木が焚かれる様子などを丁寧に描かれ、もち上げ奉納へ。まず女性が90キロの餅の持ち上げに挑戦。一生懸命なのだが、なぜかユーモラスなシーンを巧みなカメラワークで描写。女性や僧侶、見物人の表情などをアップで挿入し、テンポの良い編集で、見ている方も力が入る。思わず笑いそうなカットもあり、楽しい作品でした。

5. 岸和田普限窯 (BD)

上田吉巳 9分40秒

岸和田の山間に「普限窯」というアメリカやヨーロッパにまで知られた登り窯があ

る。岸和田といえばだんじり祭り。窯もだんじりの形をしている。3カ月前の薪の準備から窯詰め、10日間にわたる窯焚き、そして1週間後の窯出しまでを克明に描かれた労作。普限窯の小山普さんの「世界中に感動する焼き物を届けるのが夢」という思いが映像からも伝わってくるように思います。特に窯焚きの途中、取り出された赤く焼かれた器が冷えていく時の水琴窟に似た音を聞かせるシーンは強く印象に残りました。欲をいえば窯焚きの10日間という時間を感じさせるようなシーンがもう少しあればと思います。

6. リーガ旧市街 (BD)

華岡 汪

11分55秒

バルト海に面するヨーロッパ北東部に位置するラトヴィア。このラトヴィアの首都リーガの旧市街を訪問された海外旅行作品。朝の散歩で撮影された夜明けのダウガヴァ川やヴァンシュ橋などのシーンは美しい絵画を思わせる。そしてバスで旧市街の名所を観光。15世紀から17世紀に建てられた「三人兄弟の家」や「商人の猫の家」など珍しい名の古い建物が印象的。さらにリーガ大聖堂の世界一のパイプオルガンや色彩豊かなステンドグラスなど、街の歴史の重厚な佇まいを物語る風景をあますところなく描写され、リーガの風景を堪能させてもらった。ただ被写体が盛り沢山で一部は建物の外観をテロップで紹介されるに留まっているのが惜しい。

7. 台北の夜市とお寺へ (BD)

有村 博

7分54秒

「先週、クラブの仲間4人で台湾に行ってきました」ということで、その先陣を切った台湾旅行の作品。雑貨店や果物店、飲食店などが所狭しと並ぶ、にぎやかな華西街夜市を移動撮影。色鮮やかな店頭や人々が夜市を楽しむ姿がスムーズな動きで捉えられています。そして一行は1738年に創建された台北で一番古いお寺、龍山寺へ。まるで祭りでもやっているかのように明るい照明に照らされ、本堂の輝く光やローソクの灯など、日本では考えられないお寺の雰囲気表現されています。龍山寺は台北

のパワースポットといわれている。パワーを貰われた一行の台湾旅行の素晴らしい映像をこれからの例会で見せてもらえることでしょう。

8. 台北龍山寺 (PC)

井上勝彦

5分30秒

いつも時代の先端に行く斬新な映像表現に挑戦されているが、今回は全天球のパノラマビデオの映像で、台北の龍山寺を撮影。6台の小さなビデオカメラを6面に組み合わせられた自作の「カメラ」で、周囲360度、上下180度撮影できるという。プロジェクターでスクリーンに投影される映像は特殊なメガネ（名前を聞きもらしました）を移動させることにより、360度、見ている方向のシーンが映され、龍山寺の境内のワイドな映像を見せてもらった。編集が大変ということですが、今後どのような映像を見せていただけるか楽しみです。全天球のパノラマビデオをビデオクラブの例会で発表されたのはおそらく日本で初めてではないでしょうか。

9. 3Dマッピング 大阪光の陣 (BD)

渡辺雄史

12分

大阪城西の丸庭園で行われた「大阪城3Dマッピングスーパーイルミネーション」。眩い光に包まれた「光の回廊」を通り抜け、「ビッグブルー」、LEDの「光のキューブ」、そして大阪迎賓館でのバロック庭園をモチーフにしたイルミネーションショーと、光が織りなすエンターテイメントショーの数々を撮影し、テンポよく編集されています。そして、大阪城天守閣をスクリーンにした立体映像、3Dプリジェクションマッピング。めまぐるしく展開する光の芸術を時にはアップでとらえ、その迫力を表現されています。望遠で撮られているせいか、時折、ゆっくりですが大阪城が動くのが気になります。

10. ひな流し (BD)

森口吉正

10分50秒

3月3日、和歌山加太の淡島神社はお参りする人々であふれている。人形供養の寺として知られる淡島神社には全国からさまざまな人形が納められ、一年間でその数4

万5千体…と、納められたいろいろな人形とともにナレーションで淡島神社を紹介。お祓いを済ませたひな人形が三艘の船に乗せられ、加太の海岸へ。哀調を帯びたBGMが雰囲気を出している。「父や母、兄弟…思い出を思い起こしながら雛は流れていく。皆といっしょに幸せな明日を祈りましょう」というナレーションで沖へ流れていく三艘の船をとらえたラストシーンは胸に迫るものがあります。

11. 雪の日 鹿寄せ (BD)

前田茂夫

7分52秒

激しく降る雪の中、大仏殿から二月堂へと続く風景を印象的な映像で綴り、鹿寄せへとつながる巧みな編集。鹿は神の使いとあがめられ、鹿寄せは明治25年に始まる…と鹿寄せの人が語り、鹿寄せが始まる。なぜかすでに集まっている鹿もいるが、ホルンの音が鳴り渡り、鹿が木々の間から雪の中を飛ぶように走ってくるシーンは秀逸。集まった鹿が鹿寄せの人からドングリの実をもらう姿が微笑ましい。そして鹿たちは再び森の中に帰っていく。前半は雪の静かなシーン、後半は鹿寄せの動きのある映像でまとめられ、雪の日の奈良を描いた情緒あふれる作品となっています。

12. 三井の晩鐘 (BD)

関剛

6分40秒

大津市の三井寺(円城寺)の梵鐘「三井の晩鐘」をテーマとされた作品。三井の晩鐘は近江八景の一つに数えられ、歌川広重が浮世絵に描き、近江に伝わる民話にも残され、さまざまな想いが重なる。毎日夕刻に撞かれて響く美しい音色は人の心を打つものがあります。そうした三井の晩鐘にまつわる話を踏まえて、心象的に描かれたものと思われまます。疏水端の紅葉から大門、金堂、釈迦堂などを独特の心象的なカットで表現され、散って風に舞う落ち葉が思いを深めている。仏像が並んだ堂内ではより印象の強い映像で表現。そして梵鐘が撞かれると、夕焼けの琵琶湖にその音色が響くという構成で、作者ならではの心象映像だったと思います。

13. コルディレラ山脈 (BD)

山本正夢

7分50秒

フィリピンのコルディレラ山地に2000年の昔から耕されてきた棚田が広がる。幾何学的な棚田の美しい風景と働く人々の姿をいつもながらの秀逸な構図とアングルで描かれています。棚田のある村から車で行かれたのでしょうか、町へ出て、カルスト地形のルミアン洞窟へ。崖の中腹にお棺が吊るされ、600年昔から洞窟の入り口には、お棺が堆く積まれている異様な風景。そして鍾乳石が連なる洞窟に案内人に伴われカメラが入って行く。ハイキングのつもりがケイビング(洞窟探検)になってしまったとテロップに流れるように、ロープ一本を頼りに洞窟の中を進むシーンはまさに探検です。素晴らしい映像で、初めて見る珍しい風景を楽しませていただいた。

14. RANDEN 雪の朝 (BD)

高瀬辰雄

6分45秒

雪の日の朝、京福電車「嵐電」を主に北野線の鳴滝～宇多野～御室駅付近で撮影した筆者の作品。京都でこの冬、雪が降ったのは3日だけ。いずれも撮影に挑戦したが、駅に着いた途端、雪がやんだり、なかなか思うように撮れませんでした。撮り足したいシーンもありますが、その後、雪は降らず、来シーズンまで持ち越しです。

15. 光の王国 (BD)

蟹江利一

6分40秒

今年の2月3日に長崎のハウステンボスに行かれ、その夜景を撮影されています。赤や青のイルミネーションに彩られた光の風景やホテルを美しく撮られています。仮面舞踏会の舞台のシーンはやや異質だが、光の中を散歩する人たちの姿と相まって幻想的な雰囲気を醸し出している。特に後半の観覧車から見た上からの光の輝きは幻想的で、ハウステンボスの夜景、光の王国というタイトルにふさわしい情景を巧みな編集でうまく表現されているように思われまます。

以上で例会を終了し、それぞれ居酒屋組と喫茶組に別れて二次会を楽しみました。